

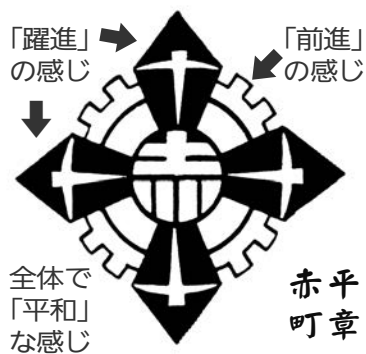
あかびらの 今と昔

今と昔のあかびらでは、どのように変化をしているのでしょうか。ここでは、昔の懐かしいイベントや風景、建物などを紹介していきます。

「市章」と「町章」



昭和41年12月2日、赤平市の市章が制定されました。同年の広報7月号、ページの一番下、小さな囲みの中に「市章を募集します」との記事が掲載されました。市の象徴を決めるには随分と控えめな、小ぢんまりとした募集要項でした。ところが、わずか2カ月の募集期間の中で予想外の367点の応募があり、そのうち道外からは170点もの作品が送られてきました。市章の決定を伝える昭和42年1月号の広報には、「係もびっくり」とストレートな驚きが書かれていました。入選者は滋賀県の商業デザイナー・奥村栄三郎さん。『頭文字「赤」を图案化し、その左右に開く両端で将来、飛躍・発



展の市勢をあらわし、外円は市民の和(輪)、向上団結を示し、明日に躍動する赤平市を端的に象徴するもの」となっています。おなじみの市章には、こんな願いがこめられていたのです。赤平町町章の制定は昭和24年7月1日にさかのぼります。公募の結果、選ばれたのは町職員・松本秀男さんの作品でした。『黒ダイヤ及びピッケルの配合によって、4つの大手炭鉱が足並み揃えて躍進するさまを表している。歯車は、各炭鉱がたゆまず、狂いなき正確な前進を意味し、图案全体の型式を花模様にして、明るい平和なまちを表現』したものだそうです。産炭地らしさがあふれ、炭鉱で栄えた当時の勢いを感じます。

地域おこし協力隊通信



働く男の缶バッジ、完売御礼！！
割引券は年末までが期限です。

任期中最後の赤平産業フェスティバルに出展しました。今回は商品やメニューではなく人にスポットを当て、「赤平商店街働く男の缶バッジ」を各店舗の割引券付きで販売いたしました。大変好評で無事に完売することができました！イベントを実施するたび、商店街の皆さんにご協力いただき大変感謝しております。

残すところあと3カ月で協力隊を卒業することになります。赤平商店街通信WEB版では市外に向けた情報発信に効果が出てきています。お店のアピールなどお気軽にご相談ください。

地域おこし協力隊 近藤



平成30年12月1日発行 / 赤平市 編集 / 企画課広報広聴係 印刷 / 光文堂